

関西いのちの電話



こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
0120-738-556
毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00

撮影：中村伊三信



生活世界に向き合って

関西いのちの電話 理事 伊藤高章

近年医療の現場では、人間を多面的に見てサポートしようという認識が広まってきています。患者の身体的な側面だけでなく、社会的側面や精神的側面、さらには価値意識や死生に関わる感覚そして美意識などスピリチュアルな側面にも配慮しようとしており、「全人的な」ケアが目標です。このような真摯な努力を大切なものと感じ、その展開に期待を寄せながらも、日々電話の声に耳を傾けている私たちは、この「～的」と分析する姿勢に違和感を感じます。

電話をかけてくる人の生活世界には、何十もの出来事とその一つ一つに向けた思いがありすべてに利害関係や信念が絡んでいます。それらが同時進行です。ある時は一つの出来事が心を大きく占めますが、それだけが人生の全てではありません。次の瞬間には今の思いが背後に退き、別な課題が心を大きく揺さぶります。思いや感情が複雑に交錯し、常に複数の、本来は互いに関連性のないような事柄が、「私に降り掛かっている」という一点で繋がり、「今、ここ」を生きる私の喜びを広げたり苦悩を深刻にさせたりするの

です。生身の人間の生活世界は、ダイナミックで「御し難い」もの、分析的な眼差しでは追いつけない「いきもの」です。

電話の向こうで話している方は、聴き手である私に向けて、ご自身が味わっているこのダイナミックな(グチャグチャで四次元の)経験を、一本の物語に(二次元に)収斂させながら語ってくれます。しかもそれは、かけ手が感じ取ってくれた私という一人の具体的な存在に向けての、オーダーメイドの物語です。いのちの電話ボランティアをしている私たちは、物語を巡って展開されるこのような人間関係の醍醐味を味わっているのです。

選挙が近づき、様々な政策が議論されます。経済、福祉、外交、教育、それらはみな、一人一人の生活世界に届いたときに具体的様相を呈します。意識しようがしまいが、いのちの基盤が影響を受けます。心のケアに関わるものにとって、選挙はいつもヒヤヒヤ、ビクビクです。政治家の思惑によって議論される政策が、私たちが関心をもつ複雑さと広がり、人の心の健康を大きく左右するからです。

第30回いのちの電話相談員 全国研修会

さっぽろ大会 参加報告

大会テーマ：「支えあう、いのちといのち —震災から1年半」

開催日：2012年10月12日～14日 会場：札幌パークホテル、北星学園大学

今年も10月12日から14日の3日間、全国研修会さっぽろ大会が開催され、全国のセンターから692名もの相談員が札幌の地に集結しました。「支えあう、いのちといのち—震災から1年半」というテーマに基づき、講演や分科会、シンポジウム等が開催されました。来年第31回の大会が大阪で開催されるということもあり、関西いのちの電話からも41名が参加しました。

基調講演では、精神科医の斎藤環氏が「震災後を生きる～震災から1年半 いま私たちに出来ることは」というテーマで講演されました。被災地でのボランティア体験を元に、震災後のトラウマやPTSD、またその支援などについて説明されました。被災者にとって最大の危機は忘れられることであり、忘れないことが最大の支援になるということ、そしてそのために語り続けることが大切だと強調されました。

その後の交流会では、北海道ならではの秋の味覚に加え、アイヌの古式舞踊や楽器演奏、YOSAKOIソーラン演舞、そしてスタッフの方々から心のこもったおもてなしを受けました。同じテーブルで隣りあった他のセンターの方々とも、すぐにうちとけて同じ悩みを共有しあうなど、非常に貴重な時間となりました。

二日目の分科会では19もの講座が設けられ、震災ダイヤルや喪失体験への援助のあり方など、相談員として被災者との関わり方を考えさせられる内容の講座もありました。また、3日目のシンポジウム「震災から1年半—今、



来年のおおさか大会をアピール

いのちの電話にできることは」では、盛岡、仙台、福島、茨城という被災地4センターの相談員から、実体験に基づく現状と課題についてご報告いただきました。壮絶なご体験を聞き何度も胸が詰まりましたが、今もなお様々な問題にご苦労されているという現実も知りました。そんな中、一人の方の「自分はどうすることもできないけれど、全国の仲間が電話を取ってくれていると思うと安心した」という言葉には励まされました。それと共に、基調講演での斎藤氏の話のように、忘れないことや関わりつづけることの大切さを痛感しました。

大会の最後に、次期開催のセンターとして関西いのちの電話が紹介され、参加者全員で壇上に上がりました。大阪らしい元気なアピールの後、三日間の幕が閉じられました。

(広報委員会)

関西いのちの電話 第31回公開講座 NHK歳末助けあい配分金による事業

「生きる」家田からのエール

講師 家田 荘子 氏
作家、高野山真言宗僧侶

日時：2013年2月2日(土) 午後1時30分(開場1時)

会場：大阪YMCA国際文化センター大ホール
(大阪市西区土佐堀1-5-6 大阪YMCA会館2F)

参加協力金 1,000円(当日1,200円) ※座席に限りがありますので、予めご了承ください

お申し込み・お問い合わせ

関西いのちの電話事務局：Tel 06-6308-6868

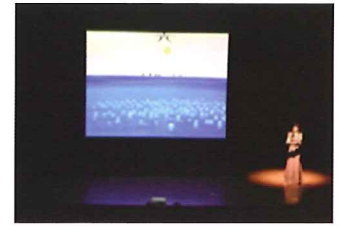
：Fax 06-6303-6180/E-mail：kaind@age.ac

第17回 チャリティーコンサート 西本梨江 絵本コンサート with 林 裕(チェロ)を終えて

今年も「関西いのちの電話」主催のチャリティーコンサートが7月27日(金)の夕刻、いずみホールで開催されました。会場は演奏者とナレーターの手元を照らすわずかな光以外は闇に閉ざされ、その瞬間ステージの大きなスクリーンに絵本「ゴンドールのやさしい光」の表紙が映し出されました。美しく澄み渡った青空、どこまでも続く砂漠、その境にある小さな二人の姉妹、美しい映像でした。その時、FM放送キャスター中村さんの声がホールにしみわたってゆきます。

『人の本質はやさしさです。やさしい心はすべての命あるものを暖かく包み込みます。私たち一人ひとりの心の中にあるやさしさ、そして、分かち合う心こそこの世界を救う光に他なりません』

なんと力強く、心に響くメッセージでしょうか。この絵本のために作曲した曲が、西本さん自身のピアノ、林さんのチェロで流れ、絵本の1ページ、1ページと映し出される映像に添ってお話が朗読されていきました。エチオピアのゴンドール高原へ飢餓救援のボランティアに出掛けた青年が、経済的に豊かな日本で忘れられようとしている優しさに出会い、そこから自分自身と向き合うという実体験に基づく感動的な内容でした。西本さんの優しく心に響くピアノとチェロのトップ奏者林さんの豊かな音色のハーモニーに客席は暑さを忘れ、心地良く感動に包まれたひと時を過ごしました。事業企画委員会として力を尽くしたものの、思うほど来場者が多くなかったことは残念でしたが、参加者のアンケートでは、ほぼ全員の方から「良かった」という回答を得ることができました。来年は「関西いのちの電話」の創立40周年です。みなさまのより一層のご協力をお願いいたします。



「ゴンドールのやさしい光」
絵: 葉 祥明
文: みなみ ななみ 自由国民社

関西いのちの電話 全体集会、20年ぶりに開催

2012年7月7日に「KAIND全体集会」が、李理事長をはじめ56名の参加により開催されました。李理事長の冒頭の挨拶で、かつての「全体会」開催から20年ぶりの全体集会の開催であることが紹介されました。7年前の組織再編検討委員会で構想された「相談員総会」開催の懸案事項を、やっと実現することができました。集会では、限られた時間の中、各委員会代表による熱のこもった活動報告、出席者との活発な質疑応答がありました。更に、創設期を知る相談員からは「関西いのちの電話」への深い想いや当時の活動の様子など貴重なお話を伺うことができ、同時に2012年度の新規認定者によるフレッシュな立場からの意見表明がなされるなど、とても有意義な時間を共有することができました。開催に至るまで、研修

グループ代表者による3回のプロジェクト会議、運営委員会においても、なかなか意見がまとまらず、次年度見送りが覚悟しましたが、「七夕の集い」と銘打って第1回の「KAIND全体集会」を開催することができました。来年度以降、全体集会が年間行事として定例化され、重要な情報の共有の場、組織運営の支柱の一つになることを期待します。

(全体集会 開催実行委員会 IJ)

*KAIND : KAnsai Inochi No Denwa

バザー会場でミニライブ開催

創立39周年記念バザーは11月3日(土)、晴れ渡る秋空の下、たくさんの方々をお迎えして開催、博愛社幼稚園も同時開催されたので、より一層活気溢れるバザーになりました。中庭会場では、子供たちがスーパーボール掬いやプラバン作りに夢中になり、焼きそば、おでん、ちらし寿司、チヂミ、フランクフルトなどの模擬店が並び、ビール片手に巡る人もいました。教会内の会場では、アクセサリー、鞆、食器、衣料品、雑貨等が所狭しと並び、出店が増えたので教会の図書室もお借りしました。今年の新しい催しは『天然デンネンズ』によるギターと歌のミニライブで、二人の心温まる演奏とお客様の手拍子で会場が盛り上がり、ミニライブの後のCD販売の売り上げをバザーに寄付していた

いただきました。久しぶりに会って話に花が咲く人、教会内の会場に食べ物を出前する人もいて活況のうちにバザーを終える事ができました。ご参加いただいた皆様に感謝の気持ちで一杯です。同時に、バザーにご寄贈いただいた下記の企業様に、心をこめてお礼申し上げます。

(株)江崎グリコ、(株)近江兄弟社、(有)なかの、(株)ダイドー繊維、(株)東リ、ミートショップ(敬称略)

(バザー委員会 H.O)

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています

皆さまのご支援が、電話をつなぎ、いのちをつなげます。活動資金が必要です。いのちの電話の活動を支えてください。



お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上に優遇されます。
口座名義 : 社会福祉法人・関西いのちの電話 理事長 李 清一
口座番号 : ゆう貯銀行・郵便局 00990-3-68480
: 三井住友銀行 十三支店(普) 998829



傾聴と共感 (11) 「聴くことのエキスパート」

私たち電話相談員は、より質の高い聴き手になろうとして、電話の前に座り、かけ手の話だけでなく気持ちやその人のあり方に耳と心を傾けています。

その努力は、2年間の養成講座の受講にはじまります。1年目は体験学習を含め心理学、精神医学、自殺、性、カウンセリングなどの講義が29回、スーパービジョン前後期各4回。2年目は講義3回、全体会3回、ケース研究3回、スーパービジョン3回、グループ研修10～11回。終了後、相談員としての認定を受け、正式に活動がはじまります。

その活動は、月2回の電話担当で、生のケースに取り組み、月1回のグループ研修、定期的なスーパービジョンの研鑽を通して、自分の聴き方や自身の人間としてのあり方を点検することです。

これだけの訓練を受けているのに、相談員には資格の証明書はなく、匿名性の原則で公表することができません。近年、臨床心理士をはじめとして、電話相談に重複する心理・メンタルヘルス系の資格や検定など

が人気です。大学院卒でないと受験資格がないものから、数十時間の研修と試験だけで取得できるものまで。そして資格取得すれば、履歴や名刺などで公表できます。

この違いが、いのちの電話の相談員のモチベーションを削いでいる元凶という声を聴きます。

私は、いのちの電話の相談員は、聴くことの訓練を受けた非専門家と考えています。

専門家は、プロフェッショナル(Professional)ですが、語源では、「神の信託」を受けた職業、それは牧師、弁護士、医師、大学教授に代表されます。近代では、科学的知識と高度な技能・技術を身につけて、社会のニーズに貢献する職業に広がり、さらにはスポーツ・芸術・芸能にも及んでいます。

プロフェッショナルに近い言葉に、エキスパート(expert)があります。「試みる、経験する」というラテン語に由来します。「ある分野で十分に経験を積み、高度の知識、技術、技能を持った人。熟練者」と辞書にあります。

いのちの電話の相談員は、職業としてステータスはありませんが、まさに、「聴くことのエキスパート」、「訓練を積んでいる非専門家」としての誇りを持ってほしいと願うのです。(長尾文雄)

ボランティア募集中 - あなたも私たちの活動に参加しませんか -

第49期電話相談員養成講座のご案内

募集期間： 2013年2月1日(金)～3月22日(金) 養成期間： 2013年4月～2015年3月(2年間)
 講座内容： 1年目は、1泊研修(1回)・週1回の講義またはケース研究・実習 (講義は毎週木曜日・午後6:30～8:30)
 : 2年目はインターンとしての実習とスーパービジョン及び各種研修
 社会福祉法人・関西いのちの電話 電話：06-6308-6868 <http://www.kaindnew.com>
 《募集要項は事務局までご請求ください。ホームページからもダウンロードできます》

全国研修会おおさか大会 テーマ決まる

7月発行の広報誌142号で、第31回相談員全国研修会おおさか大会の会場と開催日程を案内しました。日程が2013年10月25日～27日に最終決定した後、大会テーマと基調講演者を決めることが次の重要な仕事です。

基調講演者は大谷大学教授・前大阪大学総長の鷺田清一氏に快諾いただき、大会テーマは「わすれてへんで、あんたのこと～みんな誰かの大切な人～」に決まりました。

「わすれてへんで」は、電話の一方の端で苦悩する相談者、社会の片隅で不遇を感じている人、助けが届かない震災被害者に対して、少なくとも「いま」も「これから」も忘れないとメッセージを送っています。「みんな誰かの大切な人」は、決してあなたは一人ではない、必ずあなたを大切に思う

誰かが、身近に、故郷に、どこかにいることを伝えています。この言葉は、「天然デンネンズ」というグループの「ふるさとの音色(こえ)」というタイトルの歌の中で、繰り返されるフレーズです。

そして、今年10月12日～14日に開催された第30回相談員全国研修会さっぽろ大会に、大阪から41人が参加、おおさか大会のテーマと基調講演者を紹介する「ちらし」を、全国からの参加者に配布しました。最終日の閉会式で、次期開催センターの挨拶として、41人の参加者が壇上に登り、相談員の電話を聴く思いを言葉にしたメッセージを、「ふるさとの音色(こえ)」の音楽に合わせて朗読、1年後のおおさか大会での再会をアピールしました。(広報委員会)

電話相談受信状況

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,079件	2,205件	2,123件	1,921件	1,923件
相談員数(延)	500人	502人	495人	478人	479人

編集後記

限られた字数の中に込められた一字一字に、原稿を書いていただいた方の深くてあつい思いを受け取りました。編集者としての責任を改めて強く感じています。(T.H)

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
 TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
 発行人 李 清一 編集 広報委員会
 ホームページ <http://www.kaindnew.com>